

東証プライム 4631

DIC株式会社

個人投資家向け説明会

2025年12月21日



DIC株式会社

本日知っていただきたいこと

- DIC（ディーアイシー）株式会社です。今年で117年目のグローバル企業です
- 日常から最先端の半導体分野まで、化学を通じて近くにいます
- ただいま「変革」の真っ最中。これに伴い業績も向上中
- 株主還元にも力をいれています



本日の内容

1

会社概要

2

長期経営計画

3

株主還元

DICの現在地

DIC = **D**ainippon **I**nk and **C**hemicals

創業117年の歴史

祖業のインキから多角化し
更に進化中

多数の世界トップ^o クラスの化学製品

印刷インキ/有機顔料/
PPSコンパウンド、他

世界で62の国と 地域に164社

アジア、オセアニア、米州、
欧州、アフリカの各大陸に拠点

連結売上高

1兆700億円超

日本の化学メーカーでも
有数の規模

海外売上高比率

70%超

35年前の50%から
大幅に増加

連結従業員数

21,000名超

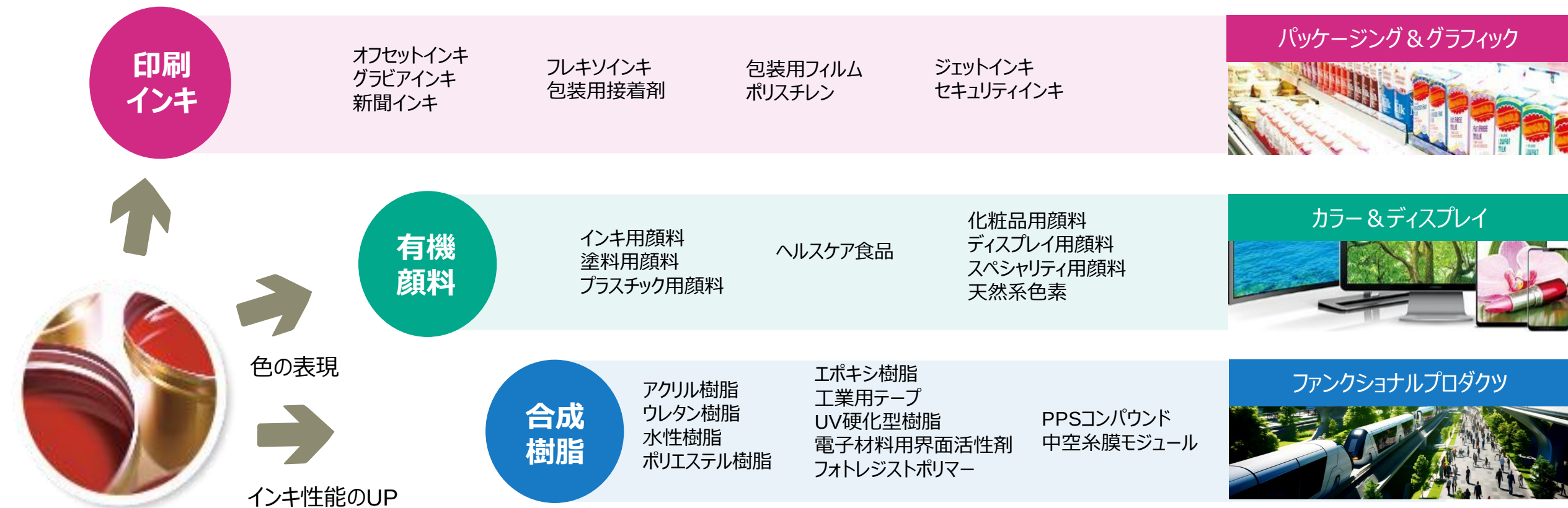
グローバルで人材を拡大し、
多様性を結集

DIC 117年の歩み

1908	1925	1952	1986	2008	2021
川村インキ製造所 として創業	有機顔料の 自社生産を開始	合成樹脂事業に 本格参入	Sun Chemical社の グラフィックアーツ部門を買収	創業100周年を機に DIC株式会社に 社名変更	BASF社顔料事業を 買収
				 Color & Comfort DICのシンボル マーク	 エフェクト顔料イメージ



事業の発展 – 印刷インキから多角展開 –



グローバルな化学メーカー

世界 **62** の国と地域に **164** のグループ会社を通じて事業を展開しています



グローバルな化学メーカー

世界地域別売上高構成 (2024年度実績)

アジア・オセアニア（日本を除く）

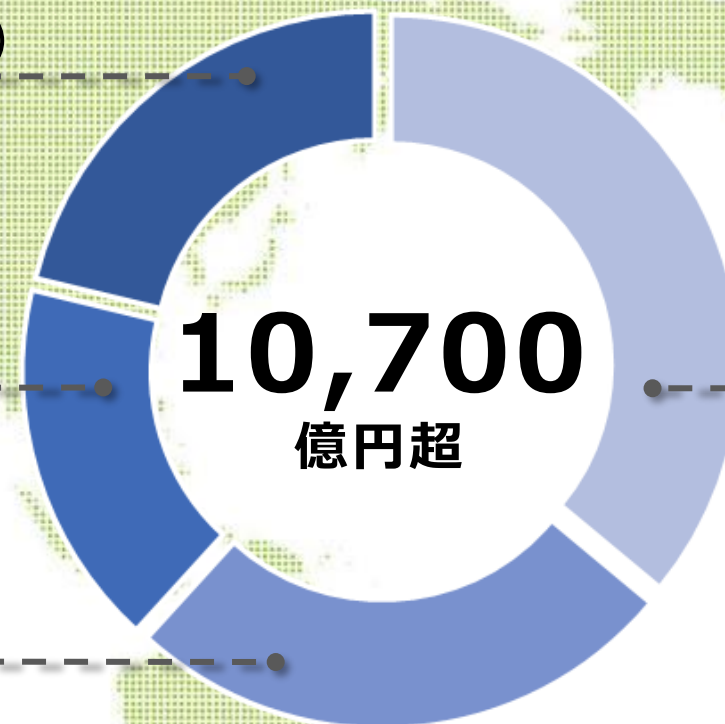
約20%

北米・中南米

約20%

欧州・アフリカ

約30%



海外売上高比率 約7割

日本

約30%

世界トップクラスの製品群

■ 代表的な高シェア製品



■ これら以外にもまだまだたくさんあります

事業紹介



事業セグメントと主要製品



パッケージング&グラフィック

- ◆ パッケージ用インキ
- ◆ 包装用接着剤
- ◆ 包装用フィルム
- ◆ ジェットインキ
- ◆ 出版用インキ



カラー&ディスプレイ

- ◆ 塗料・プラスチック用顔料
- ◆ インキ用顔料
- ◆ 化粧品用顔料
- ◆ ディ스플레이用顔料
- ◆ スペシャリティ用顔料
- ◆ ヘルスケア食品



ファンクショナルプロダクツ

- ◆ 各種の合成樹脂
- ◆ PPSコンパウンド
- ◆ 工業用テープ
- ◆ 中空糸膜モジュール

2025年度
売上高見通し

5,480億円

2025年度
営業利益見通し

272億円

2,573億円

61億円

2,961億円

230億円

パッケージング&グラフィック セグメント

—包装材料を通じて、社会や暮らしに「安全・安心」を提供する—

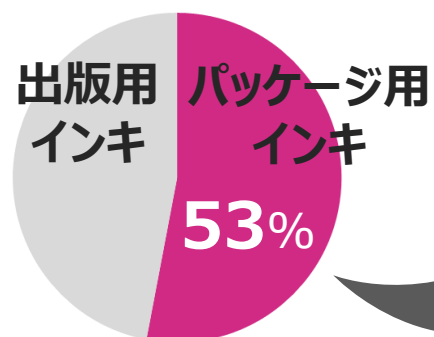
- 印刷インキの 世界シェア No.1
- アジアを中心に **市場成長が見込まれるパッケージ用インキ** に注力
- 印刷インキの中では、パッケージ用インキが **8 割**を占めている



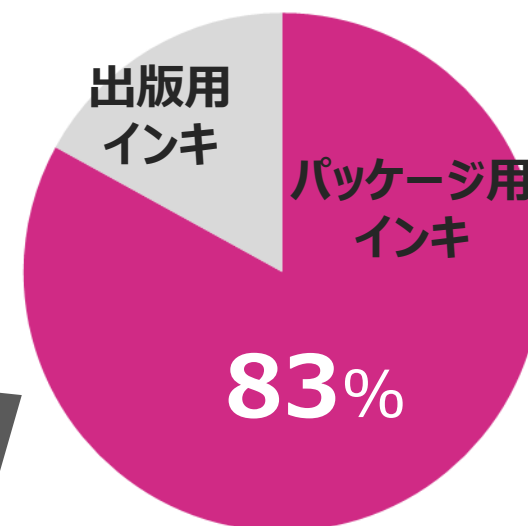
デジタル化により出版新聞用インキは
年々需要が縮小…



2012年度



2024年度



当社のパッケージ用インキは

- ・レトルト食品
- ・スナック菓子
- ・パン
- ・飲料ボトル、缶
- ・シャンプー等の日用品

様々な包装材料に
使われています



【当社の印刷インキ売上高に占めるパッケージ用インキの割合】

サステナブルなパッケージ実現のための製品群

■ 食の安全と環境に配慮した素材・ソリューションを提供

【**バイオマス原料**を使用したパッケージ材料】

インキ

食品包装向けの環境対応型
バイオマスインキ



接着剤

バイオマス原料を使用した
軟包装材用ラミネート接着剤



【パッケージの**リサイクル性**を向上させる接着剤】

接着剤

酸素バリアフィルムに代わる
補強接着剤



【**フードロス削減**に貢献する蓋用のピールフィルム】

フィルム

密封と開けやすさを両立した
機能性フィルム



印刷のデジタル化への対応 – インクジェットインキ –

■ 印刷のデジタル化・オンデマンド化により需要増加

インクジェット印刷用のインキ

インクジェットインキ

- インクの粒を印刷したいものに噴射する（＝ジェット）方式
- 版が不要なので少部数に対応しやすい
- 必要な時に必要な分だけ・・・オンデマンド印刷に対応
- 紙だけでなく、テキスタイル、建材、壁紙にも印刷可能

インクジェット印刷のプリンタ



＜紙以外でのインクジェット印刷の例＞

バナー



屋外看板



テキスタイル

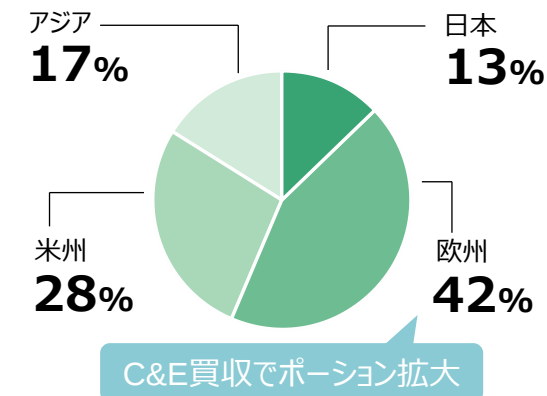


カラー&ディスプレイ セグメント

ー 表示材料を通じて、社会や暮らしに「彩り」を提供する ー

- 有機顔料の グローバルリーディングサプライヤー
- 2021年6月に **BASF社Colors&Effects顔料事業** を買収
- 遮熱対応や自動運転といった高い機能性が求められる色材開発にも注力

2024年度地域別売上高比率

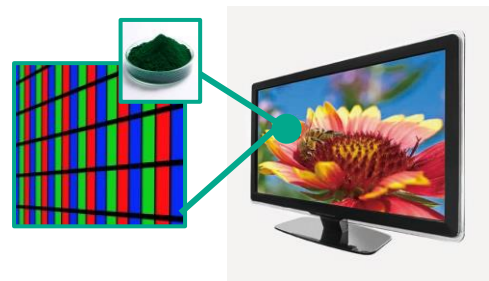


2024年度実績数値

主要製品と主な用途

主要製品売上高比率

■ ディスプレイ用顔料



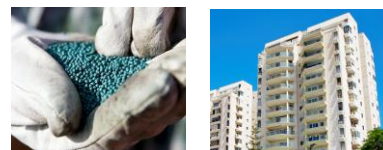
パネル用（TV、PC、スマートフォン）

■ 化粧品用顔料



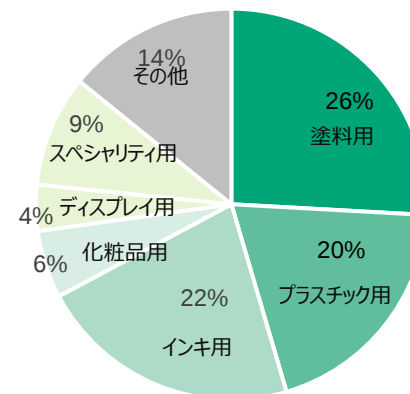
化粧品、スキンケア用品

■ スペシャルティ用顔料



農業用途

建材用途
（発泡コンクリート）



2024年度実績数値

■ 塗料用顔料



自動車外装
（LiDAR信号応答・遮熱対応）

■ プラスチック用顔料



自動車内装・外装
（ダッシュボード、エンジン周辺）
生活用品

■ インキ用顔料



各種印刷物用

色でデジタル分野に貢献 – ディスプレイ用顔料 –

■ 液晶ディスプレイの色環境に「変革」をもたらした機能性顔料

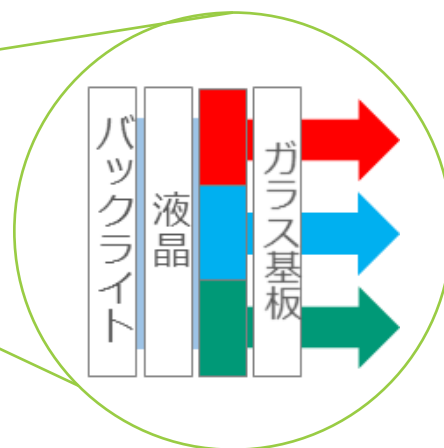
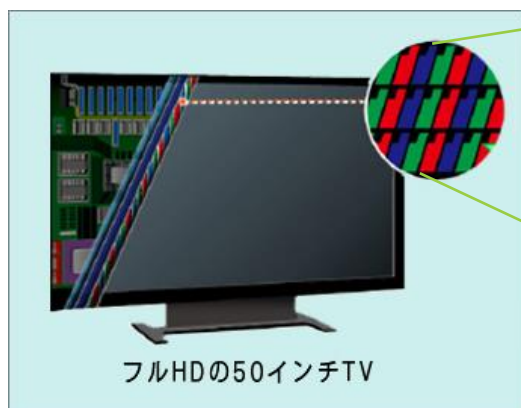


DICは世界で初めてカラーフィルタ専用の
グリーン顔料を開発

世界で圧倒的シェア の
デファクトスタンダードとなっている高収益品

Colors&Effectsの
素材力・技術力を活かし、
ディスプレイ用レッド顔料 や **イエロー顔料** の
開発に着手

カラーフィルタ顔料とは



液晶ディスプレイのガラスの下には、
R (レッド)、**G (グリーン)**、**B (ブルー)** の
3原色を生み出す色材が並んでおり、

バックライトの光が透過すると画面上に画像が表示される

明るく発色の良いカラーフィルタ用顔料は**省電力**にも貢献

■ 快適な暮らしとモビリティの発展に貢献 — 遠赤外線コントロール黒顔料 —

■ 「黒」でありながらも熱くなりにくい特殊な塗料用顔料

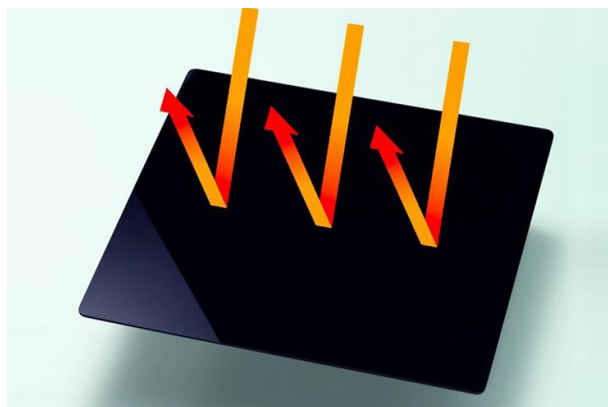


塗料の原料として使用することで、エアコンの使用量を下げ、**省エネを実現**

また、自動車のセンシング精度を高め、安全な**自動運転に貢献**



遠赤外線コントロール黒顔料とは



黒い顔料は、光も熱も吸収しやすいのが弱点ですが、この顔料は**赤外線を反射**するため、黒でも光を吸収しにくく、熱くなりにくいという特徴があります

これにより遮熱効果を高め、自動車や住宅のエアコン使用料を節約できます

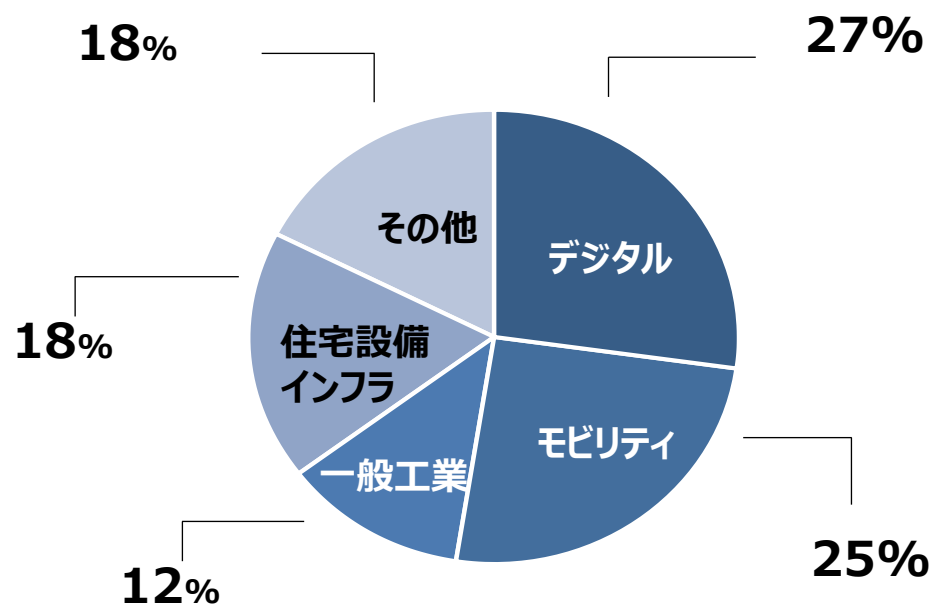
また自動運転に必要なセンシング技術（LiDAR）を検知しやすくなります

ファンクショナルプロダクツ セグメント

－ 機能材料を通じて、社会や暮らしに「快適」を提供する －

- 電気・電子やディスプレイを中心とするデジタル分野、自動車を中心とするモビリティ分野に注力、幅広い製品を提供
- 特に半導体製造分野では、前工程と後工程それぞれに欠かせない先端製品を多数展開
- 高付加価値製品の拡充とアジアでのM&Aを含めた拠点拡充による成長の取り込みを基本戦略とする

需要業界別売上高構成



2024年度実績数値

COPYRIGHT © DIC CORPORATION ALL RIGHTS RESERVED.

内装部品
アクリル樹脂

カーシート・ハンドル
ウレタン樹脂

エンジン周辺部品・ランプハウジング
空調系、電子制御系、燃料系部品
PPSコンパウンド

外装
塗料用樹脂

プリント基板・封止材
エポキシ樹脂



表面保護
ガラス飛散防止フィルム

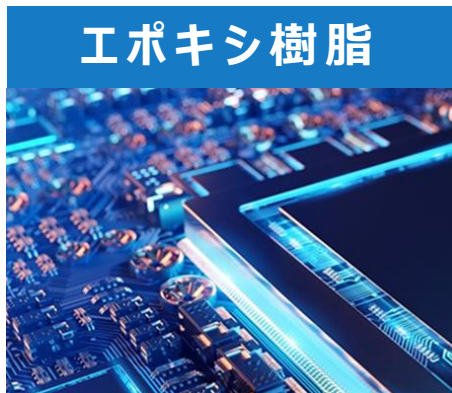
部材固定
工業用粘着テープ

半導体洗浄工程
中空糸膜モジュール



デジタル分野の高付加価値製品 – エポキシ樹脂 –

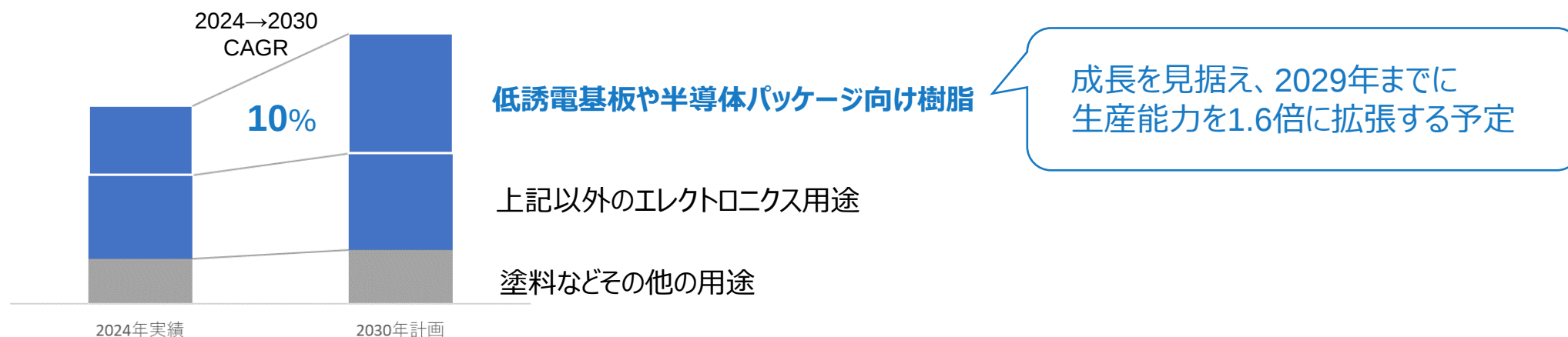
エポキシ樹脂



- 絶縁性と耐熱性に優れており、家電、PC、スマートフォン、自動車などに搭載される**半導体封止材**や**プリント配線基板**に使用されている
- エレクトロニクス製品や生成AIの進歩に従い、**素材にも高い性能**が要求される
- 当社の**高機能エポキシ樹脂**は、優れた性能が高評価を受けており、リーディングカンパニーの地位にある

目指す方向性

- エレクトロニクス用途の中でも需要の拡大が見込まれる、**低誘電基板や半導体パッケージ向け樹脂**の売上を伸ばす
- エポキシ樹脂の売上高は2030年には2024年の約1.4倍に増加する見通し



モビリティ関連の高付加価値製品 – PPSコンパウンド –

PPSコンパウンド

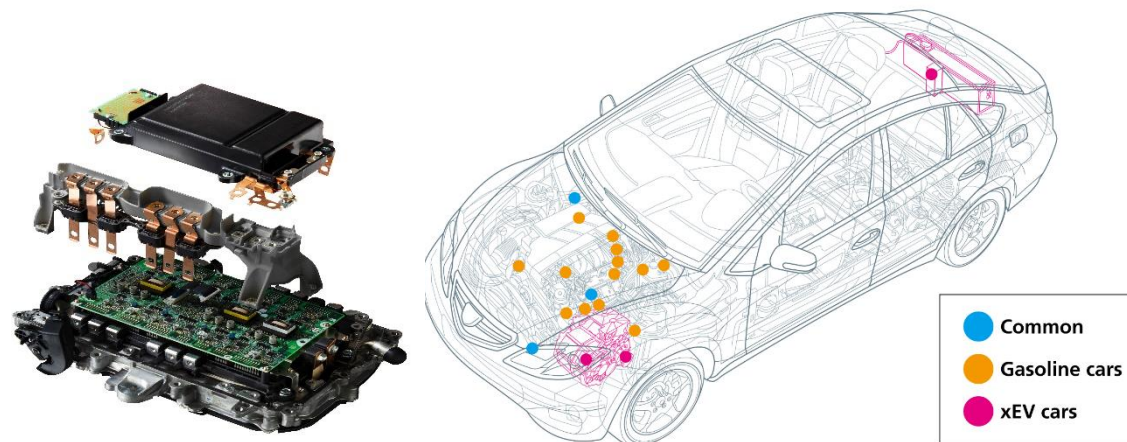


PPS: ポリフェニレンサルファイド

- ✓ 熱に強い
- ✓ 薬品に強い
- ✓ 軽い



金属部品の樹脂化により自動車の軽量化に貢献
ハイブリッドカーや電気自動車への採用が増えている



当社の強み

PPSコンパウンドの 世界シェア No.1

- 原料となるPPS樹脂からコンパウンドまで一貫生産 → 自動車メーカーの細かい要求に対応できる開発力
- グローバルネットワークを活かした強固なサプライチェーン



日本



EU



中国



マレーシア

本日の内容

1

会社概要

2

長期経営計画

3

株主還元

長期経営計画「DIC Vision 2030」の進捗



- 2030年までの長期経営計画「DIC Vision 2030」のうち、2025年度を最終年度とするPhase 1は、業績の乖離もあり、計画を一部見直し
- 見直し後、24年と25年の2年間で経営資源の適正配分と構造改革を推進し、収益性改善に取り組んだ
- これにより、営業利益は見直し後計画を達成して完了する見通し
- Phase2初年度となる2026年度は、営業利益の過去最高益（2017年度565億円）の更新を目指す

Phase1 :
DIC Vision 2030における「目指す姿の実現に向けた基盤作り」の段階（22-25年度）

Phase2 :
DIC Vision 2030における「目指す姿の実現と展開」の段階（26-30年度）

DIC Vision 2030 戦略の一部見直し

- 早期かつ確実に成果を得られる施策を絞り込み、**メリハリのある経営資源配分**を徹底
- 買収事業の合理化とシナジー追求を促進

抽出された課題		戦略の見直し
経営資源の最適配分	● 厳しい事業環境下では注力する領域の優先順位付けが必要	● 早期実現性と収益性が高い成長事業に経営資源を集中投入
	● 強みを活かしていく分野にもリソースが分散し、優先すべき事業の選別に至らず	● 短期的に優先すべき事業領域を選別し、経営資源を集中：スマートリビング領域
	● 固定費増大などに伴う欧米顔料事業の収益性悪化	● 生産拠点の統廃合 ● 大規模な人員合理化 ● 外部環境の変化に合わせたシナジー施策の見直しと実行

次世代・成長事業の早期創出に向けた取り組み – 攻めの変革 –

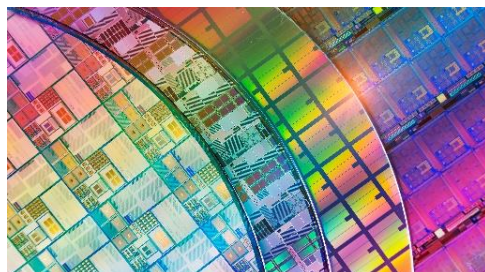
- エレクトロニクス仕様の化学・素材を軸にした事業を『ケミトロニクス』と定義し、経営リソースを集中
- 今後さらなる成長が見込まれる半導体実装分野や先端電子部品分野を中心に、DICならではのソリューションを提供

ケミトロニクス事業

《半導体》

前工程

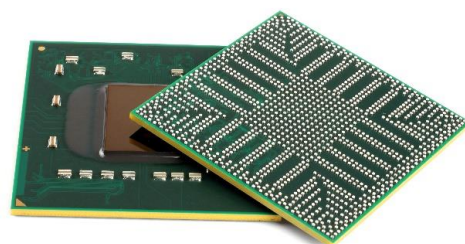
ウエハー回路形成



■ 半導体フォトレジスト用

後工程

半導体チップのパッケージ化



■ 半導体パッケージ周辺材料

配線・実装工程

基板の配線・実装化



■ プリント配線板用材料

アッセンブリ工程

セット組立

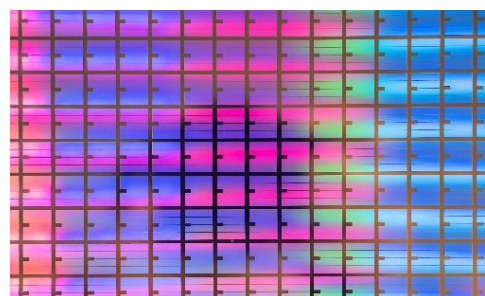


■ 接着・接合ソリューション材料

《FPD》

TFTアレイ工程

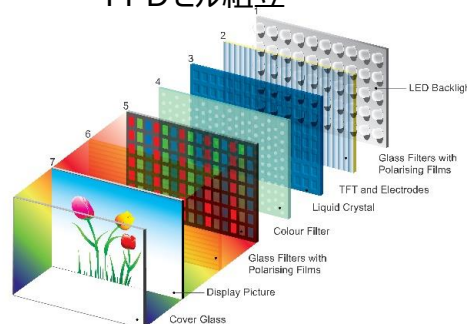
画素回路形成



■ FPDフォトレジスト用

セル・パネル工程

FPDセル組立



■ 偏光板用光学材料

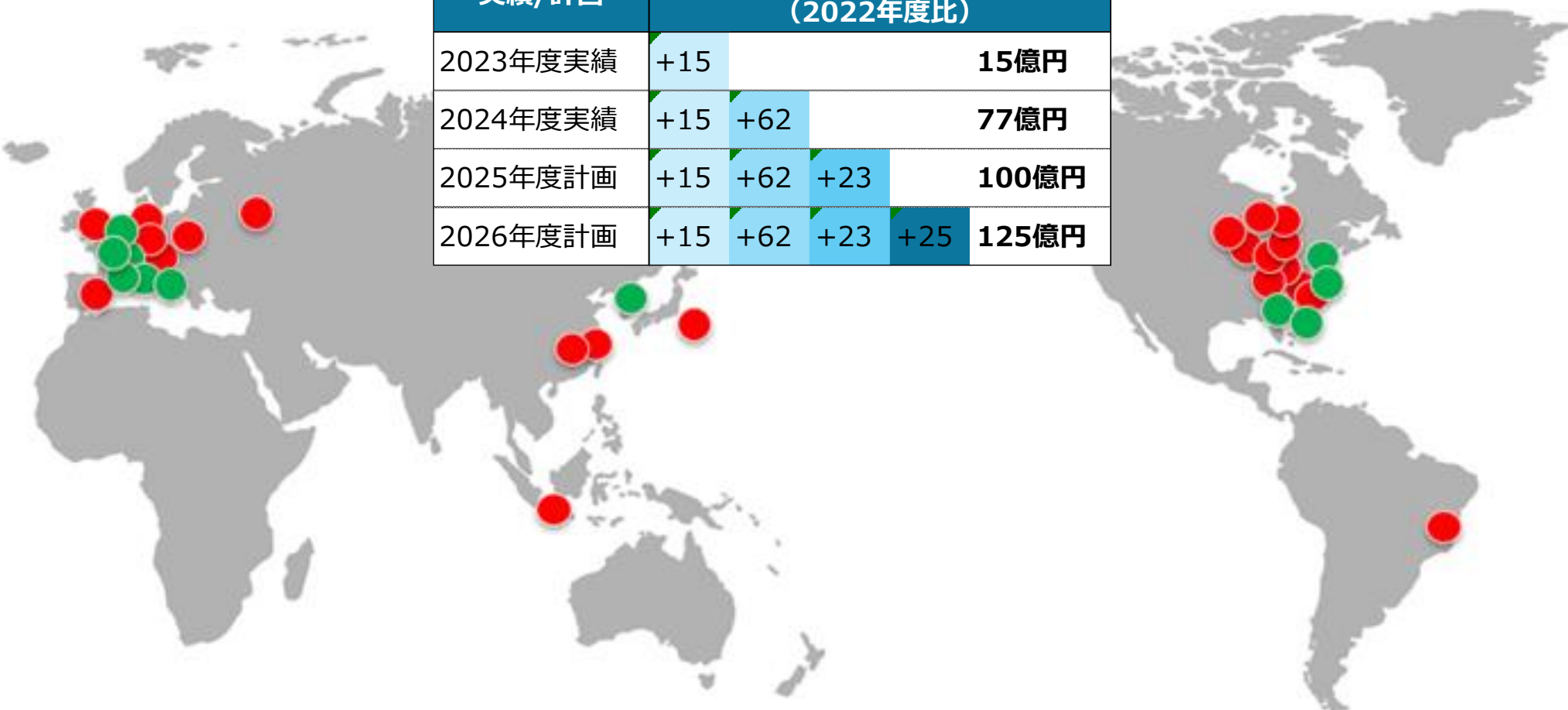
■ TP（タッチパネル）用光学材料

■ BLU（バックライト）用光学材料

欧米顔料事業の構造改革 －守りの変革－

- 大規模な**生産拠点の統廃合**、**人員合理化**をはじめとする構造改革・効率化を推進し、特に買収した Colors & Effectsを中心とする、欧米における事業の収支構造を改善することでシナジーを最大限発揮できる体制を構築

実績/計画	構造改革効果 (2022年度比)			
2023年度実績	+15			15億円
2024年度実績	+15	+62		77億円
2025年度計画	+15	+62	+23	100億円
2026年度計画	+15	+62	+23	+25 125億円



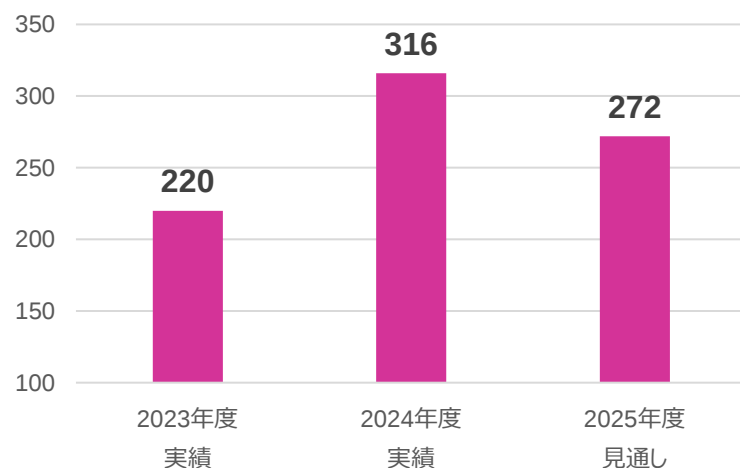
● DIC生産拠点 ● Colors&Effects生産拠点 (いずれも2021年買収時)

Phase1計画見直し後のセグメント営業利益推移

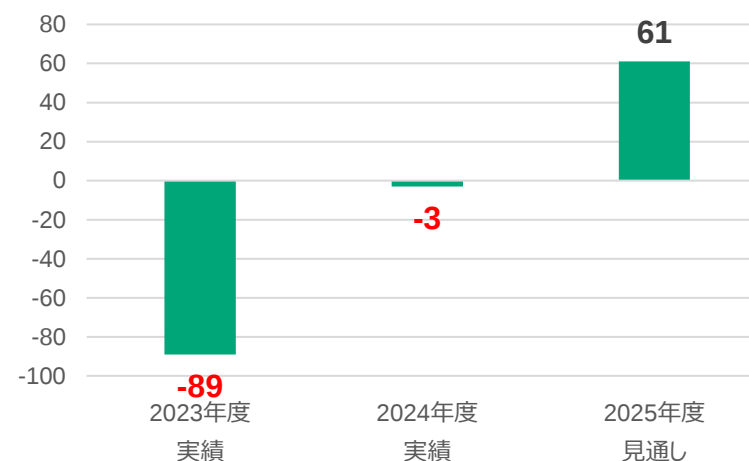
- パッケージング & グラフィックは中核事業として引き続き全社利益をけん引
- カラー & ディスプレイは構造改革の成果もあり、収益力が大きく回復
- ファンクショナルプロダクツはデジタル分野を中心に高付加価値製品が伸長

(億円)

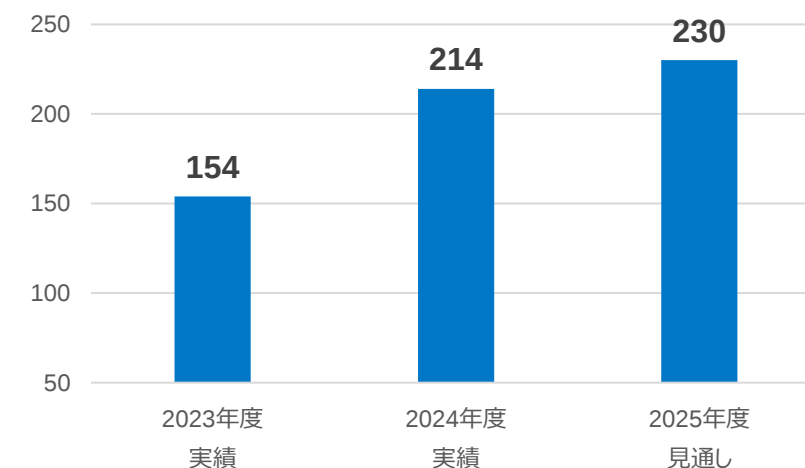
パッケージング & グラフィック



カラー & ディスプレイ



ファンクショナルプロダクツ



目指す姿の実現に向けた基盤作りが進み、次は実現と展開のフェーズへ

DIC Vision 2030 Phase2（2026-2030年度）の見直しについて

- DIC Vision 2030ではPhase2（2026-2030年度）を目指す姿の実現と展開の期間と位置付け
- これまでの課題と成果を振り返りつつ、更なる成長に向け、2030年までの基本戦略を一部アップデートし、財務計画・目標を再設定

本日の内容

1

会社概要

2

長期経営計画

3

株主還元

株主還元方針

- 24年度以降3年間をかけ事業ポートフォリオ変革と構造改革推進とともに資産圧縮によりキャッシュを創出する方針を発表。これにより、株主還元の充実を図ることをコミット
- 資産圧縮などが計画どおり進捗。余剰に得られたキャッシュは追加株主還元として増配に充てる予定

2024年、25年に実施した主な資産圧縮

- 星光PMC社売却
- 政策保有株式売却
- 液晶材料事業の知的財産および子会社売却
- 生産合理化にともなう工場土地の売却
- 建築内装材事業売却
- 美術品の売却

キャッシュイン
400億円 + α

株主還元方針

通常配当

1株当たりの年間配当額の下限を100円に設定

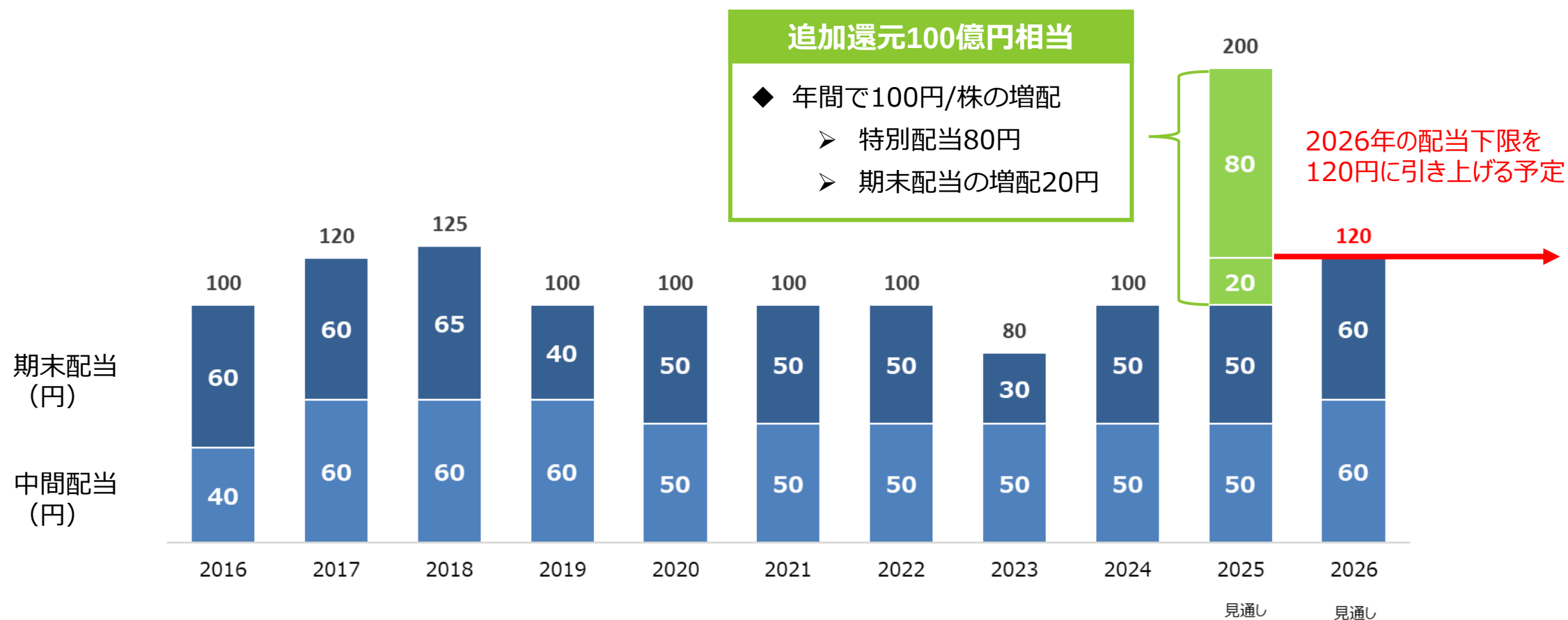
+

追加株主還元

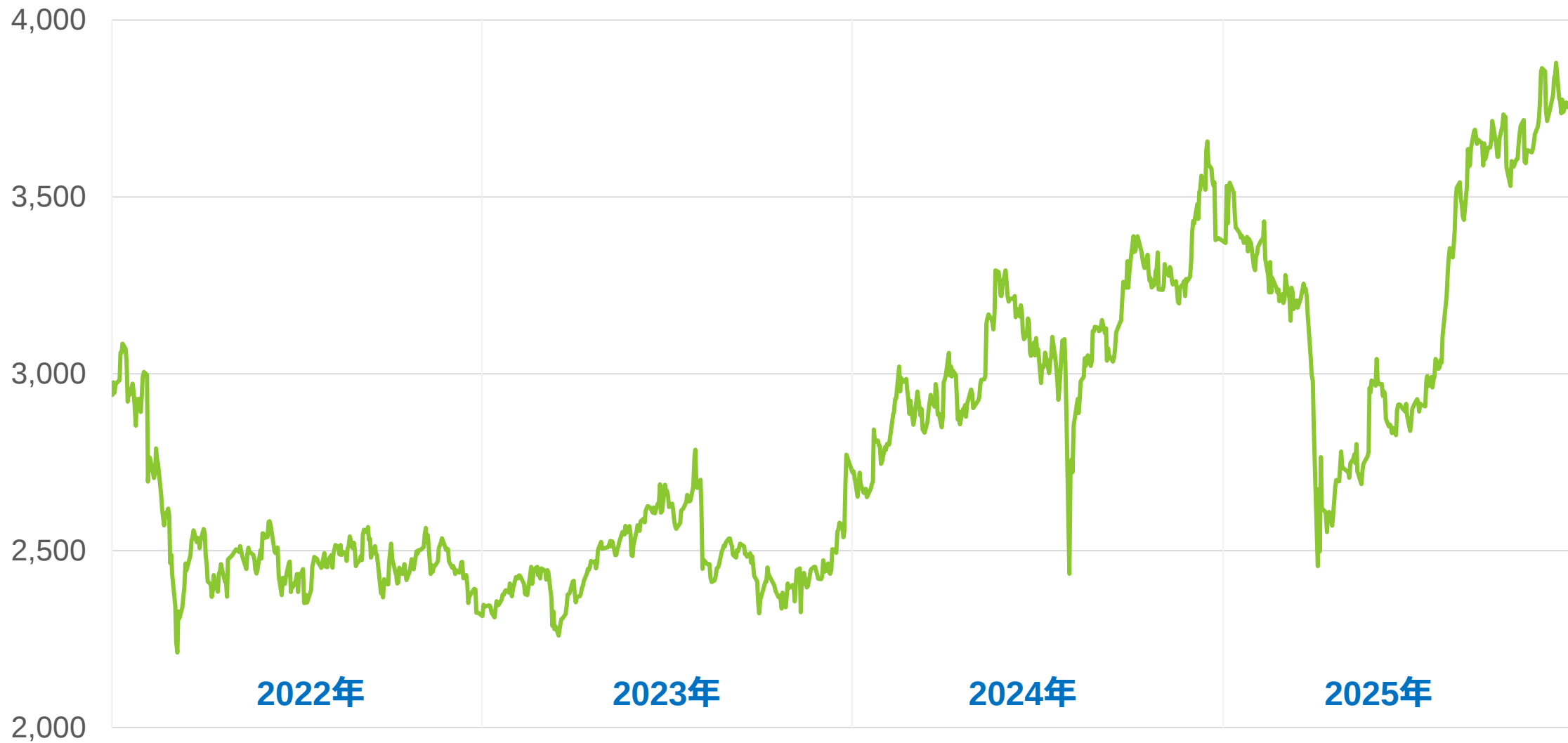
2025年に100円/株の増配
2026年に20円/株の増配

株主還元の推移

- 資産圧縮が計画通り進捗していることから、2025年度に100億円程度の追加株主還元を1株当たり100円の増配により実施
- 業績は回復軌道に入っていることから、2026年の配当下限を100円から120円に引き上げる予定



株価トレンド（22年1月～直近）



最後にあらためてお伝えしたいこと

- DIC（ディーアイシー）は、これまでの歩みで培ったバランスの良い事業ポートフォリオとグローバルな事業基盤を強みとしています。
- この強みを活かしながら、「中核事業」で着実に利益の底上げを図り、「成長事業」で利益成長をけん引するサイクルを回していきます。
- 事業成長と継続的な保有資産の見直しにより、キャッシュを着実に生み出すことで、株主の皆様の期待に応えてまいります。



Color & Comfort



DIC Corporation